

## マイシン 辻直樹社長

# かつての苦い教訓を胸に

【中部】「あんなことを残してもいたが、新しい扉を叩いて環境を変えた。茶髪やピアスに髭など、当時在籍していたドライバーを見て「正直、こんな運送会社もあるのだと思っ」と佐川時代では考えられなかった従業員の様子や身なり

に驚いた辻氏だったが、新人研修の折に提出したレポートの中で早くも「この会社を変えてみせませ」と力強い言葉を綴ってみせた。6年半に渡ってハ

ンドルを握って以降は、31歳で配車担当者として事務所入り。「常に売り上げのことを頭に置いていた」というドライバー時代で培った自身の経験やノウハウをスタッフらへ伝えていく過程では信頼関係を築きあげ、やがて課長になると入社当初から課題と感じていた身なりや服装の見直しを含めた社内改革を打ち出していった。

その後、常務を務めるまでに至った頃、リーマン・ショックによる大きな波が押し寄せる。「仕事がどんどんなくなっていく状況下で苦渋の決断だった」と話すリストラ敢行の折には、事故の多い者や高齢者を中心に15人の肩を叩き、退職者の中には辻氏自身が同社へ招き入れた

「今思えばもっとほかに方法があったのかもしいないが、当時の自分にはそれが精一杯だった。だからこそ、今の従業員にはそんな思いをさせな

課題に関しては、コロナの影響を色濃く受けて従来の形を保ちづらくなってきた社内コミュニケーションの再構築をあげ、その推進へ意欲を見せる辻氏。「企業の成長は、人ありき」とする考えと、かつての苦い教訓を胸に人材育成のさらなる深化を静かに熟く見据える。

そして今、目下の

（朝妻聖一）

「今思えばもっとほかに方法があったのかもしいないが、当時の自分にはそれが精一杯だった。だからこそ、今の従業員にはそんな思いをさせな



辻社長